

# 日本語教育の 参照枠と評価



**講師：島田めぐみ氏 日本大学大学院教授**

**開催日時：2026年3月4日(水)15:00-16:30**

**会場：上智大学四谷キャンパス 6号館4階409教室**

**対象：日本語・言語教育全般に関心のある教員、  
学生および一般の方（学外からの参加も可能）**

**参加方法：事前申込不要・参加費無料**

## 講演概要

2021年に公表された「日本語教育の参照枠」策定の背景には、評価にかかわる複数の課題が存在する。具体的には、口頭コミュニケーション能力の測定が不十分である点、多様な日本語学習者に対する日本語能力評価のための共通指標の欠如、多様な評価方法が十分に示されていないことなどである。本講演では、これらの課題、「日本語教育の参照枠」における「評価の3つの理念」を踏まえ、これからの評価について検討する。その一例として、「日本語聴解認知診断テストCD-JAT」を取り上げる。認知診断テストは、対象となる領域のアトリビュートを定義し、各アトリビュートの習得確率を受験者にフィードバックするテストである。CD-JATは、オンライン上で受験した直後に診断結果とともに練習問題を提供するシステムであり、CEFRのA2レベルのテストとB1レベルのテストが開発されている。このテストは、現時点での位置を示すとともに、今後の目標を示すことができる。この点で、「日本語教育の参照枠」の理念を具現化するものと考えられる。



**島田めぐみ氏 日本大学大学院教授**

## 講師経歴

〈経歴〉名古屋大学大学院博士後期課程修了(博士(心理学))

東京学芸大学講師、准教授、教授を経て、日本大学大学院教授

〈主著〉『統計で転ばぬ先の杖』(ひつじ書房、2021年、共著)、『評価』『新・日本語教育を学ぶ—なぜ、なにを、どう教えるか』(三修社、2020年、分担執筆)、『日本語教育のためのはじめての統計分析』(ひつじ書房、2017年、共著)、『日本語語彙認知診断テスト』『日本語教育のための言語テストガイドブック』(くろしお出版、2015年、分担執筆・共著)、『ハワイ日系人の日本語』『オセアニアの言語的世界』(溪水社、2013年、分担執筆)など。

〈受賞〉「CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)の日本語教育への適用可能性に関する基礎研究」に対して2022年日本テスト学会論文賞受賞

「日本語聴解認知診断テストの開発を目指したアトリビュートとテストの分析」に対して2020年度日本言語テスト学会最優秀論文賞